

古希を迎えて

人生七十古来稀

三浦 誠三郎 (昭和39年土木科卒)



古希とは杜甫の詩の「人生70、古来稀なり」の句からでた言葉らしい。戦国武将織田信長の時代は「人間50年」と言われていたようですが、今は人生80年です。

私の今まで歩いた道を振り返って見ると、ほとんどが会社人間であった事がよく分かりますが、誕生から現在まで健康でいられるアドバイスを受けている妻との事、身近で有った事を記述してみます。

昭和20年5月25日、秋田県南秋田郡脇本字浦田地区で生まれましたがそのころはまだ戦争中でした。

私は脇本第二小学校を卒業しましたが、妻の母は戦争疎開で東京から来て脇本駅前を産みました。そういう訳で妻は脇本第一小学校を卒業しました。しかし中学校は脇本中学校の同級生です。彼女は秋田北高校卒業後東京に帰りました。

私は昭和39年3月に秋田工業土木科を卒業した後、建設会社に就職し、その最初の勤務地は新潟県朝日村のトンネル作業所でした。ここでは昭和39年6月の新潟大地震を経験しました。その年(1964年)の10月には東京オリンピックが開催され、東京・大阪でトンネル・橋梁・地下工事などを体験しました。

昭和45年は、三波春夫の「こんにちはーこんにちはー、1970年のこんにちはー」の大阪万国博覧会の年でした。中学の同級生の藤村孝子が大阪大学付属病院の薬剤部におり、彼女と結婚しました。結婚した日が、昭和45年4月5日(カブ・カブ)です。

この日は競馬の菊花賞の日で(現在は4月第2日曜日)、私は当日の三三九度の盃の事を想い、三三のぞろ目で三千元を友達に買ってもら

っていたがこれが大当たりでした。

新婚旅行に出るタクシーの運転手さんにレース結果を聞いたら、運転手さんが「奥さん、大変な人と結婚しましたね。」と言われた事が耳の奥深く残っていますが、妻は何の事か分からず黙っていました。

これが競馬にのめり込んで行くことになるきっかけでした。結婚式の三日後の4月8日に、大阪の天六地下鉄のガス爆発事故を思い出します。結婚生活は何故か今まで続いて、二女を授かりました。

広島から東京通勤の数日前からの台風の大雨で、長良川堤防決壊で、新大阪発6時10分の新幹線で東京に向かう時、長良川付近の高架橋を徐行する窓から、人家の屋根に避難し助けを待っている人を見つづ自然の恐ろしさを感じました。私が乗った列車が通過した後、しばらくの間不通になったと記憶しています。

東京では浄水場・シールド工事・ゴミ処理場・橋梁下部・トンネル工事などの現場に従事しました。

1982年2月8日に副機長の「機長、やめてください！」で有名で悲しい羽田沖日航機逆噴射事故を滑走路の反対側200m位の場所で見ました。朝のラジオ体操をしている時でしたが、いつもでしたら着陸機体が見えて来るのに胴体が見えないのはどうしたのかな？と調べていたら、新聞社のヘリが飛んで行くので事故があったのだと思っていたら電話が多数掛かって来て、お前の所に落ちたのではと言われました。もし反対側から着陸を試みていたら当現場に墜落したのだと思います。また前日には、ホテルニュージャパンの火災がありました。

群馬県には、上越・長野新幹線工事に関わったので20数年いました。1985年8月12日の群馬県の御巣鷹山尾根に墜落した日本航空機の事故の時は、家族旅行で北海道に行っており、函館空港から乗り合わせた人が日航機に乗り継いで行った事も思い出します。

2004年に担当した群馬県前橋市大室古墳群の前二子古墳保存修理工事が、週刊文春のコラム「立ち話」で“古代人の技術を解明しながら復元”と紹介された事などと、色々ありましたが、60歳関東支店を最後に退職しその後、関連会社3年、毎日日曜日の生活を7年、毎朝4時に起き犬の散歩、7時から8時半まで2年生・5年生の孫の小学校のボランティアで通学の誘導などで足を鍛え、自営の薬局で健康に気を配り生活しています。

人生70年古希だという実感が無い今日この頃です。

宝石・貴金属 専門店



伊藤貴金属店

TEL 018-862-2761
FAX 018-864-8612

代表取締役 赤塚 京二 (昭和40年土木科卒)

【参考】

古希の元となった杜甫の律詩(8行詩)の内、文頭の4句から

曲江 杜甫

朝回日日典春衣 毎日江頭尽醉歸
酒債尋常行處有 人生七十古来稀

.....

訳：王 子雲 (S43E)

朝廷での仕事を終えて戻るたびに春服を質に入れ、いつものようにその金で曲江のほとりで酔い尽くして帰る。

酒代のツケも当たり前となり行く先々にたまっている。人は古来七十まで長生きする者は稀だから今のうちに楽しもう。.....

